

残暑お見舞い申し上げます。

暑い、暑いと言いつつも、はや夏も終盤。みなさん、いかがお過ごしでしょう？

この夏いい思い出ができましたでしょうか？

## イベント案内

### 離島ツアー

～家島諸島にて夏を締めくくる！～

日 時：8月28日（土） 午前7時45分集合

目的地：家島（姫路の沖合い／船で約30分）

集合場所：JR千里丘駅〔JR京都線・大阪駅より普通で約15分〕

（改札を出て左前方の階段を下りた所。喫茶店 CITY の前。）

参加費：¥8,000-

持ち物：食器、釣具（お持ちの方）、帽子、軍手

その他：釣り&ソーメンを予定しております。雨天中止。

### 初秋のハイキング

～知る人ぞ知る！PAOのハイキングと言えば登山も同じ！！

ナメてかかってははいけません！今回もなかなか手強い、京都の愛宕山を目指します！～

日 時：9月15日（水） 午前8時30分集合

目的地：京都府・愛宕山（924m／標高差840m）一般向き

集合場所：JR千里丘駅〔JR京都線・大阪駅より普通で約15分〕

（改札を出て左前方の階段を下りた所。喫茶店 CITY の前。）

持ち物：弁当、水筒、雨具

参加費：¥4,000-

コース：清滝～空也の出会い～月輪寺～愛宕神社～黒門～水尾岐～清滝（約4時間半）

申込み：参加希望者は8月25日までにご連絡ください。

その他：雨天中止

\*下山後は温泉に立ち寄りましょう！

### 長良川カヌーツアー

10月1日夜～3日で長良川カヌー&キャンプツアーを予定しております。岐阜県を流れる清流長良川をカヌーで下り、夜は得意のキャンプで宴会！！PAOのキャンプにまだ参加していない方、カトリーヌ号に乗っていない方はぜひ！初心者もOK！

参加費：¥15,000～18,000- 参加希望者は9月10日までにご連絡ください。

さて、秋も深まる 11 月は登山に温泉か？ハイキング？はたまた、しまなみ海道サイクリングツアーでも？  
そして、いよいよ今年の締めくくり 12 月は忘年会！今年も鍋で締めますか？  
おすすめのコース、店などみなさまのご意見・情報をお待ちしております。

10 月 8 日夜～11 日で山行を計画中です。北アルプス方面を考えておりますが、この時期ともなると雪が降ることも考えなくてははいけません。  
登山経験者が集まれば、実行予定です。行ってみたいと言う方はご連絡ください。  
只今のところ、①涸沢～穂高②燕岳～餓鬼岳③笠ガ岳～双六岳、このあたりで考えております。

## イベント報告

(NO. 36)

### 八ヶ岳登山

長野県・南八ヶ岳 横岳／2829m～硫黄岳／2760m 7 月 16 日（金）～18 日（日）

総勢 11 名となった八ヶ岳登山。相変わらず天気予報はイマイチだが、16 日午後 11 時に千里丘を出発。

車 2 台に運転手が 3 人ではさすがにつらい。睡眠不足のまま、ようやく着いた登山口の美濃戸口・赤岳山荘には午前 7 時過ぎ。

7 時 45 分。準備を整え、南沢コースを行者小屋目指して出発！テントにシュラフ、食料、燃料…それに各個人の装備を詰め込んで、みんなザックはいっぱいだ。

しばらくは樹林帯を歩きつづける。何度かわたる沢が涼しげで気持ちいい。心配していた天気もなんのその。歩き進むうちに、強い日差しも差し込むようになってきた。

体が暖まり、歩くのにも慣れてくると、みんな自分のペースがつかめるようになってくる。休憩を何度か入れながらも、樹林帯を抜けると、八ヶ岳の山並みが眼前に広がった。ここまでくれば、行者小屋まではもうひとがんばり。

10 時 20 分、全員無事に行者小屋に到着！ここでようやく一息つける。行者小屋をベースにして、テントを張り、重いザックを置いて横岳から硫黄岳へと目指せるからだ。

テント設営を終えると昼食だ。具のない素ラーメンだが、山で食べるとウマイ！

12 時 20 分。雨具と防寒具を持って、まずは地蔵の尾根から横岳へ！

ビールを飲んだのがいけなかったか？いきなりの急登に息も絶え絶え。しかし、高度も一気にかせいだ。振りかえり見れば、大きく広がる山並みがとりかこむ。

だが、見上げるような登山道はさらに厳しく険しく続く。ハシゴ、クサリ場を乗り越えて、たどり着いた地蔵の頭。赤岳が目の前に迫り、横岳の山容も厳しさを増す。

ガスがかかり体も冷えてきた、ここからは稜線をさらに横岳へと歩を進める。ガスのきれまから、うっすらと富士山が姿を表した。

行者小屋を出て2時間20分、ついに横岳頂上に立った！2829m！しかし、残念ながらガスがかかり展望は開けない。

一息つくのもつかの間、先はまだ長い。横岳からはいったん下降するようになり、再び硫黄岳へと登り返す。ただただひろがる岩の斜面がづらい。

疲れに睡眠不足もピーク。硫黄岳頂上ではグッタリと倒れこんだ。

2つのピークを制した後は、赤岳鉱泉を目指して、延々と続く下りである。右に左にジグザグ道を黙々と歩き、ようやくたどり着いたのは17時。行者小屋まではもうひと息だが、日暮れまでに帰れるか…？

全員が行者小屋に着くころには薄闇につつまれていた。ランタンの灯りの中、夕食を終えても、あまりの疲れのためか酒を飲む元気もない。

シュラフにもぐり込むと、テントを雨がたたき始めた。しかし、なにも考える余裕もなくあっという間に深い眠りに入ってしまった。

翌朝5時。降り続く雨に、赤岳登頂を断念する。心なしかホッとすることも…。

再び眠りから覚めたが、いつまでも止む気配がない。しょうがない。雨中の撒収に、下山を決める。

八ヶ岳の山々を背にし2時間半。雨が上がり、日も差しはじめたころ全員無事に赤岳山荘に到着。

みなさんよくがんばりました！おつかれさまです！！

あとは、温泉にゆっくりとつかり、一路大阪へ。

渋滞もなく、予定より早めについたので、焼肉で打ち上げとなりました。

初参加の方もおられました、厳しい山行と言う共通体験を通してすっかり仲間となり、またこの焼肉でおおいに盛り上がったのでした。「女王様」「焼肉奉行」と言う、ニックネームまですっかり定着してしまったおふたりほか、みなさまには大変な荷物を持っていただくことになりましたが、無事に終える事ができた事を感謝しております。

ありがとうございました。また、お会いできる日を楽しみにしております。

【栗原隆一 記】

~~~~~

## T e n t   S i t e

<PAOイベント参加アンケート・回答報告>

八ヶ岳登山で、いただきましたアンケートのご意見を紹介いたします。

①【今回のイベントについて】、②【サークルの雰囲気について】

~~~~~

[11 - 098 吉田 晴美]

- ①楽しかった。かなり遅れをとってしまったけど、思っていたよりしんどくなかった。トイレもあって快適だった。後からけとばされなくてよかった。みんなと一緒に行って、帰れてよかった。1日たったけど、筋肉痛にならないのがものたりない、まだかなあ。
- ②みんな親切だし、にぎやかでかなり良かったらうと思う。

[11 - 106 シップのたーちゃん]

①八ヶ岳！硫黄岳よりテントをはった行者小屋まで、暗くなる前に戻れるか、心配だったが、なんとか戻れてよかった。その日のシュラフでの睡眠は3・2・1でグーだった。

②◎ 二重丸

[11 - 111 まえっち]

①本当に登山に関しては、全くの初心者だったので、準備段階からすっかりブルーになってきて、途中で行き倒れになったらどうしよう、と真剣に悩んでいたんですが、無事にイベントを終えた今となっては、ほんとは行ってよかったなーと思っています。確かに、ザックを背負っての行者小屋までの道のりや、テントを張ったあとの頂上めざしての本格的な登山は、体力的にも大変でしたけど、心配していたよりも何とか体が慣れてくるかんじだったし、普段見ることのできない景色（高山植物とか、遠くに見る富士山とか）にとにかく感激しました。

それに、テントをはってシュラフで寝たり（なんと、この登山に参加する前はシュラフをしらなかつた！）、みんなで飯合炊さんのような食事をするのも、自然に還ってるといふかんじで、なんとも新鮮な体験でした。

残念だったのは、2日目の朝に雨が降ったので、予定のコースを登れなかったことですね。もうやる気まんまんだったのに・・・と言いたいところですが、サロンパスを体中に貼っていた初心者の私たちにとっては、恵みの雨でした。はい。

それにしても、PAOのメンバーのみなさんはもちろんのこと、登山の途中で会った皆さんの礼儀正しい様子にはほんとは関心しました。狭い山道ではお互い道を譲りあったり、声をかけて励ましたり、そういうことがすべて自然のルールというかんじなのが、気持ちよかったです。

今回は、とても貴重な体験をさせてもらいましたが、こんな初心者にも文句も言わず、助けてもらった他のメンバーの方々と、ほとんど睡眠なしでずっと車の運転をしてもらった3人の男性陣には、とても感謝してます。有難うございました。

②今回参加していたメンバーとは、ほとんど初対面だったにもかかわらず、最初からみんなとても気さくで、色々教えてもらったおかげで2日間楽しく過ごせました。

いろんな話しをしたり、共同作業をしたりするうちにそれぞれの個性もわかってきて、おもしろかったです。

~~~~~  
アンケートにご回答いただきましたみなさま、ありがとうございました。

今回、紹介できなかったアンケート、感想文は次号で紹介させていただきます。

（NO. 37）夏山登山第2弾！南アルプス／甲斐駒ヶ岳。

ガスのきれいな仙水峠から美しい姿をあらわした摩利支天。強風と雨の中、命がけの岩登り直登コース！2967mのピーク。そして、おそるべし双児山！と今回もいろんな出来事があった甲斐駒ヶ岳登山の報告は次号で！

## ———— PAO会長・栗原隆一の海外放浪記 ————

### II ネパール編

#### 6 ジャングル突入

木を倒してあるだけの橋を四つん這いになりながらも渡り、林の奥へと入っていくサイ

の後を追う。

ガイドは「大きな声を出さないように！姿勢は低く！サイが向かってきたら木に登れ！走って逃げる時はジグザグに！！」と注意をするが、気が弱いのか一番後ろからついてくる。運転手は、と言うと先頭に立って奥へ奥へと分け入っていく。

慎重な僕は、とりあえずちょうどいい具合に枝が曲がって登りやすそうな木があったので目をつけておいた。「いざ！」と言う時は、ここだ…。

サイと言うのは、こんなにも大きな動物だったろうか？20mぐらい先で木の葉を食べているそれは、動物園で見ていた同じ動物であるとは思えない、威厳と迫力をビンビンと感じさせている。顔の先には立派な一本の角。この角一突きで、僕達はひとたまりもないだろう。体中はヨロイで覆われているようだ。荒い鼻息も聞こえ、小さな耳をプルプルと動かしているのもここからはハッキリと見える。

こっちは茂みの中に隠れているつもりで、その写真を撮っていた。

「ジロリ！」そう、まさしく「ジロリ」とはこういうときに使う言葉なのだろう。急に顔をこちらに向けると、ジロリとした目と目が合ってしまった。「まずい…！」と思ったがどうにも動けない！しばらく息を殺して相手の様子をうかがっていたが、突然沈黙を破るかのように、それは「スタスタスタ」と体を反転させた！その動きはノッシノッシではなく、まさしくスタスタスタなのであった。巨体に似合わない素晴らしいフットワークには感心した。いや、そんな場合ではない！僕はそれ以上にすばやく立ちあがると、走った、走った。そう、あの木まで…！！走った…が、「エーッツ！な、なんと言うことだ！！」

驚いたことには、その、俺の木に、ガイドが先に登っているではないか！「それは、俺の木だー！」と思ったがどうしようもない。おまけにガイドは助けるそぶりも見せない。なんという事だ！あせった僕は木の枝から登ろうと、飛びついた。しかし、太い枝で力が入らず体を持ち上げることができない。足はブラブラとわずかに地上から離れているだけである。背後から「ザッザッ」という音が聞こえたかと思うと、ブラブラしている僕の横を小野がものすごい勢いで駆け抜けていく。「だめだ…」僕はその木をあきらめ、小野の後を追って走るに走った。

この時、僕はカール・ルイスとなり、前に行く小野はまさしくベン・ジョンソンか？ふたりは猛烈な速さで林の中を走りつづけた。

幸いにも、サイはそう追ってはこなかったようだが、この驚きと何年ぶりかの全力疾走で、ハアハアと息は切れ、心臓はドキドキと破裂しそうだ。

しかし、久しぶりに感じるこのドキドキ感はなぜか心地よく、顔は自然とほころんでいた。

こんなに驚いて逃げてきたが、落ち着くと僕達の足は再びサイへと向かっていた。

今度も慎重に木を探しておく。当然、ガイドがそばにいない事を確認してからである。今度の木のそばには、大きな切り株があり、それに足を掛ければ簡単に登れそうであった。

大きなサイが2頭。それに、小さなサイがいた。どうやら子連れである。危険度はさらにアップ！！

小野と原ちゃんは運転手について、かなり近くで写真を撮っている。

突然、「来た来たっ！」と言いながら走ってきた。僕は、「よし、この木の上から走って

くるサイの写真を撮ってやろう。」と思いながらも、急いで切り株に足を掛けた。

ズルッ！あれ…？ズルッ！あれれれ…？！

足を掛けるが、登れるどころか、切り株は崩れ落ちて行く。

「だめだっ…！」再び、僕は小野を追っての全力疾走であった。

落ち着きを取り戻してから、どうしてあんなに崩れたのだろうか、と見に行くと、僕が木の切り株だと思っていたのは、土を固めたアリ塚であったのだ。よく見ると、周りには同じようなアリ塚が何本も地中から生えてきたかのように突き出ている。

2度も追われたにもかかわらず、運転手はまだ奥へと入っていこうとしていたが、サイのほうもジャングルの奥へと姿を消してしまった。

こうして、ジャングルツアーは終わった。帰りの車では、朝のこともすっかり忘れて、今の体の震えるような感動のおかげでか、みんなにこやかな顔であった。

## 7 ポカラ

チトワンでは野生の動物を間近で見ることができ、さらにサイに追われるという一生忘れることのできない体験までして、これだけでもネパールに来てよかったと感じられた。

しかし、やはりネパールと言えばヒマラヤ。これを見ずには帰れない、と言うことでポカラに向かう。

ポカラはカトマンドゥの西 200km、アンナプルナ、マチャプチャレと言ったヒマラヤを目指すベースともなる街である。

バスを降りると、そのヒマラヤはドカーン！と居座っていた。

雪をかぶった 7000～8000m 級の山々が連なる。その山の頂きは、どれもが鋭く研ぎ澄まされたようにトガリ、天を突くかのようにそびえている。この山の姿には、いつまでも見飽きることがなかった。

ポカラの街は、と言えばなんともんびりしていて過ごしやすい。ヒマラヤに登るわけでもない僕達は、旅の終盤をここでゆっくりとすることにした。

(次号につづく)

### PAOホームページ公開中！！

アドレスは、<http://odcpao.com>

ホームページでは、発足当初から最近のものまで写真での活動報告、またメンバー紹介等を随時更新しております。ぜひ、ご覧ください。

PAO通信・PAOの活動に関するご意見、ご希望また企画や体験談などお寄せください。お待ちしております。

アウトドアサークルPAO 栗原隆一

Eメールでも受付中！アドレスは：[info@odcpao.com](mailto:info@odcpao.com)

99.8.14